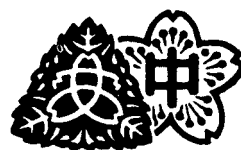
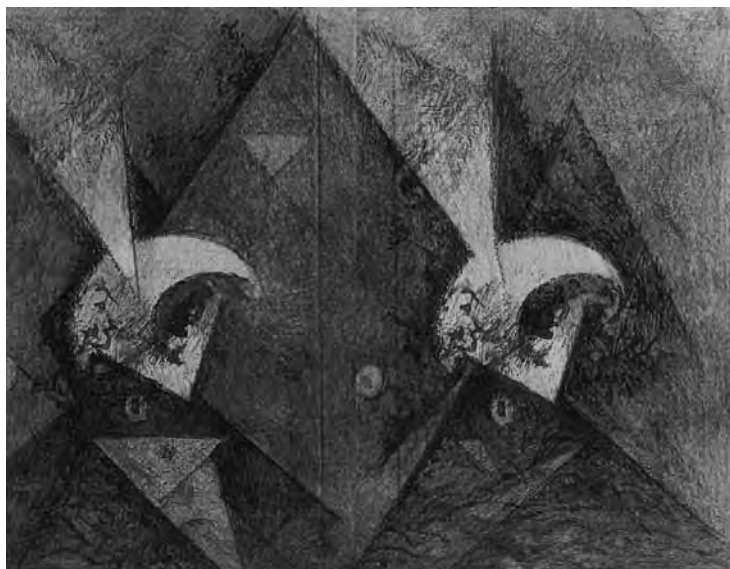


東京桑野会会報

●2012年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8 YKB新宿御苑804



No.34

画：佐藤昭一（56期）



ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

原発事故で「福島」の名は世界中に轟いてしまった。地震・津波に加え、放射能と風評被害で郷里福島県は大きな被害を受けており、母校の安積歴史博物館も甚大なダメージを受けた様である。地震と津波は防ぎようなかったが原発事故は人災であり防止できたのである。このことが残念でたまらない。あの時間連地域の原発は安全装置が働き制御棒が上がって原子炉は停止した。原子炉は止まっても核燃料は猛烈な熱を出し続けるので冷し続けないと水素が発生するし最悪の場合臨界が起こってしまう危険がある。近くの福島第二原発は冷温停止しているのに福島第一原発だけが冷却用の予備電源が水没して作動しなかったため水素爆発を起し、放射能を撒き散らしてしまった。津波の可能性

を考慮した複数の予備電源を準備しておけば惨事には至らず、超弩級の地震にも耐え抜いたとして今頃日本の原発技術は世界の賞讃を浴びていたに相違ない。東京電力は原発の安全神話を過信し、何重もの予備電源配備への投資は必要なしと考えていたのであろう。根柢に慢心があったことは否めないと思う。何事にあれ「慢心」程恐ろしいものはない。日本人はとかく慢心に走る傾向がある。朝河貫一が「日本の禍機」で警鐘を乱打したのも日露戦争の勝利で自信過剰になった日本の慢心に先行きの不安を感じたからであった。われわれも日々の生活において慢心に陥らない様たえず自己を見つめ直すべきなのであろう。これこそ今回の事故の教訓でないかと思う。

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を次の通り開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 2012年(平成24年)6月1日(金)
- 時 間 午後5時 — 受付開始
午後6時 — 総会
午後6時45分 — 懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件
2. 予算決算の件
3. 役員改選の件
4. その他
5. 講演 演題「低線量の放射線の影響について」
講師 東京大学大学院工学研究科 特任准教授
野村貴美氏(83期)
- 場 所 目白 椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
(TEL 03-3943-1111)
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円
(学生は年度会費込み 3,000円)
2012年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございまして、出欠の返事は同封の葉書で5月21日(月)までにご返送下さいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2011年6月3日(金)に開催され、一般会員135名、学生会員16名の総勢154名の参加があり盛況でした。

母校便り

☆母校は創立127周年を迎えました。安積の創立記念日は9月11日で、毎年9.11はお祝いの日です。安積127周年を迎える年の3月11日に、東北地方太平洋沖地震が起きました。3.11は安積にとって9.11と並び重要な日となりました。

☆東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、母校にも大きな影響を及ぼしました。その影響はまだまだ現在進行中です。しかし安高生は、「福島は元気だ。福島の復興は俺たちがやる。」という意気込みを見せてくれた福島の高校生(佐藤校長先生の言葉より)のリーダーとして、力強く逞しくしなやかに、生きて・活きています。その様子をどうぞ。

☆平成23年度に、第35回全国高等学校総合文化祭「ふくしま総文」の開催が予定されていましたが、東日本大震災と福島第一原発事故の影響で、開催の中止も検討されましたが、8月3～7日に、郡山市・会津若松市・福島市を中心に開催されました。規模は縮小されたものの全国から多くの高校生達が来福し、また福島の高校生たち“文化部のインターハイ”とも呼ばれる大会を、立派にやり遂げました(ふくしま総文公式HP <http://www.fukushimasoubun.gr.fks.ed.jp/>)。ふくしま総文の実行委員長は、母校生徒会長の遠藤顕雄(125期)君でした。“この総文を復興の足がかりとし、福島をはじめとする被災地を元気にしたいという一心で取り組んだ”は彼の言葉。

人が、季節が、集います。

味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水内・れすとらん花車
- 石焼会席処・木春堂
- そば処・無茶庵
- フランス料理・カメラア

宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

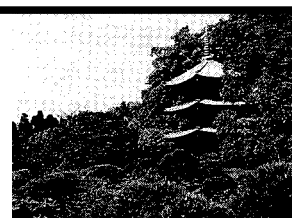
- 2,000名様までのパーティー、国際会議、ファッションショーなどのお集りに。
- 最新機能の音響装置。

寿

ご婚礼

佳き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、仏蘭西会席着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お振りいただけます。
- チャペル・神殿でのご挙式も承ります。



CHINZAN-SO
椿山荘
03-3943-1111

総文をやり遂げて、多くの仲間達への感謝を表す彼の望みは“また元気な福島がみられることを心から願っている”。…その日は必ず来る。

☆ふくしま総文への部門別への参加は、写真部門（写真部）、将棋部門（将棋部）、自然科学部門（物理部）、放送部門（放送委員会）、器楽管弦楽部門（管弦合奏部）、囲碁部門（囲碁同好会）でした。

☆スポーツでは、不屈の精神安積魂で、インターハイ東北大会優勝・全国大会出場のテニス部（男子団体）、高校ゴルフ選手権大会全国大会出場の増子瑠菜さん。

☆NHK杯全国高校放送コンテストは、放送委員会は毎年の活躍です。

☆母校合唱部の活躍は、今年も、です！。一昨年の第63回全国合唱コンクール全国大会では、“金賞および文部科学大臣賞”を受賞しましたが、第64回の昨年度は“連続の金賞および府中市教育委員会賞”を受賞しました。ちなみに第64回の“金賞および文部科学大臣賞”は安積黎明高校です、流石だ。郡山二中・郡山五中の二校も全国金賞受賞ですし、郡山、どれだけレベルが高いんだ…（驚）。

☆安積といえば、伝統の応援団です

ね。平成23年度の応援団幹部は6名で、1年生4名（男子1名・女子3名）が新たに入団しました。応援団長の七海友紀君の言葉、“安積を一つにまとめあげ、大応援団を作り上げ、安積を勝利に導く。このためにも我々は日々の精進を続ける”、そうだよやっぱり安積は応援団だよ。

会員消息

○粒来哲蔵氏(58期)が第63回読売文学賞を受賞されました。

粒来哲蔵氏(58期)は、第63回読売文学賞・詩歌俳句賞を受賞されました。受賞詩集『蛾を吐く』(花神社)は、「美しい風景を抒情的に詠む詩とは対極にある。黄色いほろ切れを体に貼り続ける男、少女から聞こえる‘われを食うての声’—」と評される。第一回の読売文学賞は、ご自身の詩の師である草野新平が受賞している。「同じ賞を受けることができ、本当にうれしいですね」とのお言葉。おめでとうございます。

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。()は期、逝去された日

岩谷 萬治氏(40期)(平成22年10月28日)
工藤新太郎氏(43期)(平成23年2月6日)
高瀬 禮二氏(46期)(平成23年4月4日)
古川 淑夫氏(47期)(平成22年8月21日)
石川 一氏(48期)(平成22年3月24日)
柳沼 午郎氏(51期)(平成23年2月7日)
五十嵐 宏氏(53期)(平成22年11月)
佐久間盛政氏(54期)(平成22年3月)
菊地 貞三氏(55期)(平成21年6月4日)
本宮 達也氏(58期)(平成22年2月)
小針 久氏(59・60期)(平成23年7月2日)
世永 昭一氏(59・60期)(平成19年)
渡辺 繁氏(62期)(平成22年)
佐藤 直孝氏(62期)(平成23年3月31日)
池島十志夫氏(64期)(平成23年3月4日)
浪瀧 善昭氏(65期)(平成21年3月18日)
鈴木 克巳氏(67期)(平成22年11月8日)
柳内 定徳氏(68期)(平成21年2月16日)
菊地 正衛氏(69期)(平成23年3月26日)
近内 靖夫氏(69期)(平成23年9月30日)
大内日出夫氏(70期)(平成22年7月)
大森 陸行氏(70期)(平成21年)
小松 伸剛氏(70期)(平成22年11月29日)
遠藤征志郎氏(72期)(平成23年10月20日)
新田 信氏(74期)(平成23年2月14日)
佐藤 克明氏(75期)(平成22年)
永井 守氏(76期)(平成22年)
円谷 具隆氏(77期)(平成21年12月7日)
谷平 聖一氏(旧姓吉田)(81期)(平成23年1月27日)



前向きに 前向きに

安積桑野会会長

山口 勇 (69期)

東京桑野会会員の皆様お変わりなくご壮健にてお過ごしのこととお察し申し上げます。

昨年のあの忌まわしい3.11大震災から一年が過ぎました。関東圏にお住まいの皆様も様々な形で大変な思いをされて過ごされた一年ではなかったかと拝察いたします。我が福島県は地震・大津波に加え、原発事故、放射能汚染、それに伴う風評被害等々、何重もの災

害に見舞われました。その後、倒壊した建物や壊れた道路など復旧が目に見えて実感できるものもありますが、一方で放射能汚染による農作物への影響、放射性物質を含んだ建造物等の問題、健康被害、その他今後どのような問題に直面するか分からない不透明な状況にあります。そのような中において福島県民は持ち前の粘り強さで、現状を少しでも改善しようとそれぞれの立場で精一杯努めております。

本校も学校当局により、校庭表土の除染、側溝・中庭の除染、校庭周辺の樹木の伐採、崩れたブロック塀の撤去、フェンスの建立等、生徒たちの学習環境が整備されてきています。それに応えるべく生徒たちも文武にわたって真剣に取り組んでいると聞いております。一昨年度日本一に輝いた合唱部

は昨年度も全国大会で金賞（全国三位相当）を受賞しました。硬式テニスでも全国大会に駒を進めています。これらはほんの一例です。自分たちも厳しい環境にありながら、避難所や仮設住宅で暮らす被災者にボランティア活動を継続している生徒がいることも報道で知りました。後輩たちが前向きに現実に取り組んでいる姿を頼もしく思っております。

本校125期生の卒業式が3月1日例年通り厳かに行われました。大学入試でも好結果をもたらしてくれるものと期待しております。卒業生には志高く自らの目標に向かって邁進してほしいと念じております。

先に『桑野会報』(42号、2011年9月発行)でもご報告いたしました。が、昨年の大地震により我が母校安積高校

旧本館（安積歴史博物館）も大きな被害を受けました。詳細につきましては省きますが、館内のしっくい壁の広範囲にわたる崩落、礎石の一部ずれ、窓ガラス破損等々被害は甚大でした。しかし、剥がれ落ちた壁の内側はどこも頑丈な板張りとなっており、寸分の歪みもズレもなく、122年の時を経て、その本体・本髄は些かの揺るぎもなく、びくともしませんでした。市内でも多くの公共施設建造物が全壊・損壊また

は使用不能となっている中で目を見張るものであります。

この安歴博は、いま修復に向けて第一歩を踏み出しました。文部科学省の修復見積り額約1億5千万円に対し、国の三次補正予算で、85%の補助を受けられることになりました。また県・市からの補助も頂けることになり、有り難く思っております。しかし、各教室・展示室内部も壊滅的な被害を受け、その整備その他を含めると数千万円を

要する見込みです。同窓生の皆様には近々改めてお願い申し上げますが、我ら同窓生の心の拠り所である旧本館の修復復旧のためにご協力をよろしくお願いいたします。

母校は4月に第128期生を迎えます。新入後輩達の前途洋洋たらんことを希望いたしております。

東京桑野会の益々のご発展を願い、ご挨拶いたします。



ごあいさつ

安積高等学校長
佐藤 馨

平成23年度は、大震災や放射能汚染により多くの児童・生徒が転校を余儀なくされたこともありまして、教職員の人事異動は8月1日付となりました。私も8月1日に着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

着任してすぐの8月3日から7日の日程で、第35回全国高等学校総合文化祭「ふくしま総文」が開催されました。県の生徒実行委員長は本校生徒会長の遠藤顕雄君でした。立派に大役を果たしてくれました。

開会式は、震災のために郡山市文化センターが使えなくなりましたので、会場が変更になり会津風雅堂で開催されました。第三部に発表され

た本県の構成劇「ふくしまからのメッセージ」は、実に感動的でした。これも震災後に急遽変更された内容にもかかわらず、すばらしい出来栄でした。県内の高校生からのメッセージを基に構成されていて、震災が起きた当初の絶望、その後の虚脱、共に支えあう友の再発見、そして復興へ、という内容です。（「ふくしま総文」のホームページで映像を見ることができま

す。）
開会式では、構成劇ばかりでなく、本県の生徒達は一貫して、「福島は元気だ。福島の復興は俺たちがやる。」という意気込みを見せてくれました。

また、本校テニス部が県大会で団体優勝をして、夏休み中に、インターハイの全国大会に出場しました。残念ながら初戦敗退はしましたが、東北選抜大会でも優勝して春の全国選抜大会出場を決めました。

10月29日には、本校合唱団が全国合唱コンクールで2年連続の金賞と、3位相当の府中市教育委員会賞を受賞しました。

校内の放射線量に関しましては、普通の学校生活を送るのには問題ない値にまで下がりました。グラウンドの表土の入れ替えは、春の早い時期に終わっていましたが、その後も、中庭の表土入れ替えや、落ち葉や枯れ葉、立木の整理などの除染対策も進めてきた結果、授業や学校行事は特に支障なく進めることができました。

以上のように、年度当初の混乱を乗り越えて、ほぼ正常な教育活動を行うことができています。いろいろご心配を頂いていたことと思いますが、生徒たちは元気に勉学と部活動に励んでいます。

さて、桑野会誌にも書きましたが、復興のために若い力のリーダーとなる人材を育てなければなりません。本校にはその素材となる生徒が多数います。東京桑野会の皆様にも、この後輩達の成長のために、是非お力添えをお願いしたいと思っております。

最後に、東京桑野会の益々の発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます、あいさついたします。

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

私の「1Q84」

宗像良保 (78期)

村上春樹の「1Q84」は、主人公の青豆が渋滞した高速道路でタクシーを降り、首都高のはしごを伝って地上へ降りるところからアナザーワールドの物語が始まりますが、「3.11」に海外にいた私の物語は、成田空港へ着いたところから始まりました。空港は国外へ脱出しようとする人たちでごった返していました。東京は、駅のコンコースの明かりが半分消されて薄暗く、電車はもちろん、街行く人もどこへ行ってしまったのか、普段の半分も乗っても歩いていませんでした。しかし、被災地からはもちろん、東京在住の人も西へ西へと避難していきます。知人に電話すると「宗像さん、あとで笑い話になってもいいから、沖縄とか海外とか、できるだけ遠くへ逃げた方がいい」といって、自分は家族を山陰の実家へ避難させたということでした。フクシマ原発で水蒸気爆発があった日です。政府も東電も情報を公開していませんが、この日は本当にあぶなかったようです。特にテレビへの検閲はひどいものがありました。

この後の物語は、チェルノブイリと同じレベル7になってしまったフク

シマの「故郷喪失」の悔しさです。大の大人たちが「号泣」しました。原発地帯から逃れてきた人たちと一緒に泣きました。身一つで逃げてきた人たちの悔しさ。それこそあと30年も帰れないであろう故郷の話に泣きました。私は、こんなにも泣き虫だったのかというほどに、テレビを見ても新聞を読んでも涙が止まりませんでした。

4月29日にダライ・ラマ法王と日本仏教会による大震災犠牲者四十九日(七七七日忌)法要が東京・護国寺でありました。まず般若心経の読経があり、このとき私は涙が次々にあふれてきて止まらず、ずっと泣いていました。続いてダライ・ラマ法王の話があり、私にはこのダライ・ラマ法王の話が、釈迦の話に聞こえました。子供を失った母が、この子を生き返らせてほしいと釈迦に頼みに来たとき、では、子供を亡くしたことのない家に行き、水ももらってきなさい、といった話です。

国を失ったチベットの民、それを率いるダライ・ラマ法王から、困難な状況に打ち負かされることなく、心の内なる力を強く持ち、立ち上がりなさい、日本は広島・長崎の焼け野原の中から立ち上がった民族ではないですか、と諭されたのです。同じ地震や津波に襲われたのでも、ハイチ、ミャンマー、インド、バングラディッシュなどでは貧しさゆえの桁違いの死者

や被害となっています。復興もままなりません。

あれから1年、あらためて東日本大震災に対する早期なる被災地の復旧をお祈り申し上げます。

(株)プレジデント社)

福島ブランドの消滅と故郷再生プラン

秋山茂雄 (91期)

私は世田谷区の二子玉川に住んでいます。駅前のデパ地下や近隣のスーパーや商店街で、昨秋以降、福島産と表示された野菜や果物を全く見かけなくなりました。あの震災以降、春から夏にかけて、この街でも福島応援キャンペーンがたびたび開催されていました。しかし、いつも福島産のきゅうりもトマトもナスも、最後まで山積みのまま大量に売れ残っていました。もう二度と、福島産の農作物が店先に並ぶことはないのではと、とても不安を感じています。

91期の秋山茂雄と申します。1959年の生まれです。昭和30年代の半ばで、映画「三丁目の夕日」の時代です。東京タワーは一歳年上、浩宮(皇太子徳仁親王)と同学年です。少年時代の郡山の街は、駅前ロータリーから福島交通のバスがたくさん乗客を積ん

そば・うどん・酒処

鞍手茶屋

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F
 大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1
 中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠

☎03-3581-7066

☎03-3213-2385

☎024-984-3774 〈店主〉上野富衛 (78期)

霞ヶ関ビル店
 2009年4月
 リニューアルOPEN!

東京で福島のにんちんともちを!!

— 昼はそば、夜は酒と肴 —

で四方八方に行き交い、うすい通りを中心に買い物客でごった返し、次々に新しいデパートが新店。人々はとにかく元気で、明るい未来を描いていたのだと思います。1971年4月、私は行健小学校の6年生。木造2階建ての教室の窓から、授業中に、東の阿武隈の山々を眺めていたのを覚えています。その頃、その山並みの向こうでは福島第一原発が密かに稼働を開始しました。それから40年。2011年3月11日、あの瞬間を私は、東京・築地のオフィスで迎えました。銀座の街を見おろすガラス張りの高層ビルで、私のいる18階は、床が左右に大きく揺れて、まるで東京湾に浮かぶ屋形船のようでした。

本当の空がある、うつくしま、ふくしま。長く続けてきた全県挙げてのディスプレイーションキャンペーンです。風光明媚な豊かな自然と、関東からの交通の利便性をアピールしてきました。磐梯山、安達太良山、猪苗代湖、歴史ある会津若松や喜多方の街並み、温泉、スキー、ゴルフ場…。その美しい福島の大地からとれた米、野菜、果物、肉、牛乳、魚…。各地の銘酒、銘菓の数々。そして何十年、何百年、何世代にもわたる県民一人ひとりの営みが、故郷を愛する気持ちが、福島というブランドを付加価値の高いものにしてきました。

その大切な福島ブランドを、あの原発事故が、一瞬にして破壊し、地獄に突き落としました。除染で福島の大地を元に戻すことができたとしても、この福島ブランドの価値が蘇ることはありません。私は広告業界にいますが、ブランド・エクイティという概念があります。その製品やサービスのもつそのもの本来の価値とは別に、生活者の頭の中にあるそのブランドの知識や経験を通じて増加（減少）する付加価値のことです。福島＝放射能汚染、危険なエリアという強いイメージ

ができあがってしまいました。福島と表記するだけで大きなダメージを受け、価格競争力もダウンする。つまり、ブランド・エクイティはゼロどころか、大きなマイナス。特に食品や観光では、その影響は甚大で致命的です。

原発事故、放射能汚染、FUKUSHIMAは人類史上最悪の出来事として、未来永劫、世界中で、建屋が爆発したあの無残な原発の映像が繰り返し放映され、語り継がれ、世界中の人々の記憶に刻まれていきます。福島はこの呪縛から逃れることはできません。

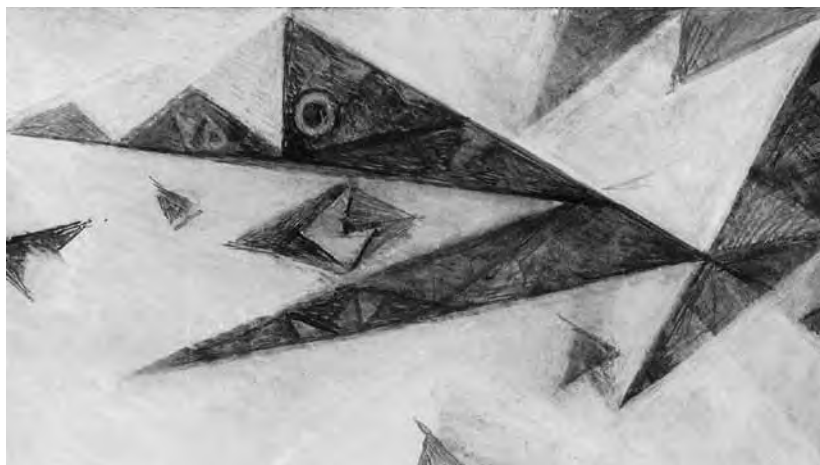
このままでは農業、観光業など県の基幹産業が成り立たず人口流出がさらに加速します。少子高齢化、過疎化が急激に進み、無人の集落があちこちにできます。町や村が機能を失い、土地が荒廃し、農業も観光業もさらに…、負の連鎖が止まりません。この最悪のシナリオを逃れるために、福島の未来図をしっかりと作らなければならない。しかもできるだけ早く。そこで私が勝手に再生プランを考えてみました。

「福島を捨てる、という考え方です。これが真っ先にやるべきことで、全てです。福島と名の付く呼称、福島県、福島県庁、福島市、福島空港、福島大学、福島テレビ、福島民報…。地名、

商品名、企業、団体名、ありとあらゆるものから福島という名称を外し、福島を無かったことにします。（但し福島第一、福島第二原発はそのまま変えません。）

次に福島を別の呼称に置き換えます。例えば「安積」。個人的にはこれが最適だと思います。県内のあらゆる福島を安積に変えます。福島県はもちろん安積県です。安積県庁（郡山市への移転も検討）、安積空港、安積大学、安積テレビ、安積民報…。問題は、福島高校が安積高校になりダブってしまうこと。また福島市民が安積を素直に受け入れないと思いますので、福島市関連は、別途「信夫」に置き換える。信夫は「忍ぶ、で、ある意味とてもふさわしい。最後に、残ったすべての福島を一括で安積に置き換えれば完成です。

安積県のエリアですが、原発の所在する町村は全て切り離します。これだけは譲れない。新生・安積県から絶対に原発が想起されないようにしなければなりません。そして、夢のある美しい街につくりかえます。夢と理想がなければ、人口流出を防ぐことができませんので。阿武隈川をセヌ川に、逢瀬川を京都の鴨川のように、開成山をセントラルパークに、市民が集える美



画：佐藤昭一（56期）

しいスポットをたくさん作りましょ
う。郡山を本気でウイーンに。いわき
をハワイに、小名浜をホノルルに…。

このプランは、福島ブランドを捨て
て、新たに安積ブランドを創るとい
うことです。安積ブランドをうまく育て
て、ブランド・エクイティを最大化さ
せる。県民が誇りを持ち、日本中から
信頼され、世界中が憧れるブランドに
仕立てることが故郷の再生に直結し
ます。

朝の通勤電車では、隣の乗客のスマ
ホ操作の肘で脇腹をつつかれながら、
終電間際の満員電車では、充滿したア
ルコール臭と鼻を衝く加齢臭に鼻を
つまみながら、200キロ以上も離れた
故郷を思い、こんなことをばかり考
えています。桑野会の皆さん、91期の
同期、新生・安積県のみなさん、がん
ばっぺ！

(アサツデー・ケイ / ADK)

がんばっぺ福島 がんばっぺ安積

渡邊龍一郎 (81期)

広報部の依頼により会報原稿を書
こうとしていたが、あれこれ迷い書け
ないでいたところ自分の気持ちと重
なる文章に出会ったので以下紹介し
たいと思う。「東日本大震災は、大地
震、巨大津波、福島第一原発の事故と
いう三重苦の災害をもたらした。とく
に放射能が怖いという風評が広まっ
て、政府が避難指示を出した福島原発
周辺の放射能の状況は危険ではない
にもかかわらず、住民は強制的に避難
させられた。放射能被害だけは絶対に
阻止するという政府の方針で、家を失
い、財産を失い、避難先で病気のため
死亡するなど、平成の強制連行とも称
すべき悲惨な事態が生起している。

これまで我が国は、我が国が侵略国
家であったという誤った歴史認識に

苦しめられてきたが、いまこれに加
えて誤った放射能認識が我が国を苦し
めている、日本の国は悪くなければなら
ない、放射能も悪くなければならな
いというのだ。現在の放射線医学で
は、低線量率の放射線は健康にとって
有益であるとする説もあるのだが、我
が国は、放射能は限りなくゼロに近い
ほうがいいという誤った放射能認識
にとらわれている。

歴史認識と放射能認識が対になっ
て、我が国を弱体化しようとしてい
る。今後、我が国が再生するため
には歴史認識とともに放射能認識につ
いても正していくことが必要である。

震災後、我が国政府は「放射線」に
対する知識と情報の不足から、先頭に
立って風評被害を撒き散らしてきた。
もちろん、震災時には菅総理がこれ
を国難と位置づけて倒れる寸前であ
った自らの政権延命を企図したであ
ろうことは想像に難くない。そんな下
種の発想から政府の対応は混乱を極め、
ことごとく後手にまわるとい
う醜態を演じたのである。

一方で、東日本大震災で被災した東
北人の我慢強さや自衛隊をはじめ警
官、消防に従事する人たちの働きぶり
には目を見張るものがあった。今回の
大震災は、さまざまな面で日本の素晴
らしさや強さを改めて実感する契機
になったのではないかと思う。(中略)
日本人はまだまだ捨てたもんじゃな
い。戦後教育でそしていま我が国政府
が先頭に立って我が国のぶち壊しを

やっているような状況でも、日本人が
本来もっている優れた国民性は失わ
れていない。冷戦崩壊以降、衰退モー
ドに入っている日本であるが、政治さ
えしっかりすれば日本は再び強い国
家として立ち上がるであろう。

なんとか我が国の政治に、歴史認識
と放射能認識を正してしっかりして
もらいたい。私は、いまが我が国政治
の底であると思う。日本はほんとうは
強い。日本国民の優れた国民性が間も
なく、かつての強い日本を復活させる
ことであろう。」

ここまでの文章は元航空幕僚長田
母神俊雄氏 (80期) の著書「ほん
とうは強い日本」PHP新書からの引用
である。現在の私の気持ちと重なっ
ていると思われたので、無礼を承知で引
用させていただいた。興味のある方は
一読をお薦めする。

昨年の総会の折、田母神さんと初め
てお目にかかった。一期違いというこ
とは同時期母校で同じ時間を共有し
ていたということで親近感をもって
挨拶させていただいた。東京桑野会
の会員は多士済済、これまでも多くの
出会いがあったしこれからも多くの
出会いが生まれるだろう。昨年の震災
以来言葉が空しいと感じてきた、復興
が一向に進まない被災地を見るにつ
けやりきれなさも感じてきた。でも被災
地はぜったい再生する、きつとき
つと復興すると信じている。今年も総
会がやってくる一年ぶりで会う会
員の笑顔が待ちどろしい。



画：佐藤昭一 (56期)

女子一期生のジレンマ 乃至、どうしても知って もらいたい気持ち

星 瑞穂 (117期)

東京桑野会に参加させていただくようになったのは、この数年のことである。

先輩方に迎えられるたびに、あの頃の思い出が蘇る。会場に入るなり、いつもどこからか遠巻きにわっと声があがるのだ。

「女だ！」

男子校時代に在学されていた先輩方には驚きのなだ。まだ女性参加者は多くない。先輩方は声をひそめて私の様子を窺うが、だからどうということはない。そう言われて気分が悪いということも、気持ちいいということもない。

私にはただ、それが、懐かしくてたまらないのだ。涙が出るほどに、あの春を思い出す。

10年前、初めて安積高校の門をくぐったとき、悲鳴にも近い声が四方八方から聞こえたものだ。

「女だ！スカートはいてるぞ！」

遠巻きにこちらを窺う好奇心の目が、くすぐったくもあり、怖いと思ったりした。だが、どこか誇らしくて、「我こそは女子一期生」という気持ちで胸を張り、慌てふためく先輩たちをおもしろがっていたものだ。

中学時代の私は、どうしても安積高校に入学したかった。質実剛健の男子

校。バンカラの気風。あの男臭さの中で、ただひたすらがむしゃらに、勉強して、勉強して、切磋琢磨して、男だからということも女だからということもなく、学びたいという思いが強かった。

だからこそ、安積高校の共学化という事実には、切ないジレンマがつきまとう。

東京桑野会に行くと、必ずこうおっしゃる先輩がいる。

「僕は共学化には反対だったんだよ」

そのとき、私はこう答えたい。

「私だって、反対だった」——と。

女子が入学することによって、伝統の校風が失われることを危惧した先輩方は多かろう。事実、安積高校は変わったと思う。男子だけのあの独特の気楽さ、荒っぽさ、自由さはやはり、どこかなくなった。

ただ、私たち、女子一期生が入学したとき、それはまだ健在だった。先輩たちはみんなパンツ一丁で廊下を歩いてたし、夏になると汗臭くて目がしばしばするくらいだった。怒号が飛んで何かと思うと、背中からサンダルや水風船をぶつけられた。球技大会のときにはスタンドにボールを投げ込まれた。そのたびに、同じことをやり返した。いつの間にか、自分が女子一期生という感覚は薄れて、男子高生のような気分になっていた。環境がそうなのだから致し方あるまい。後輩の女子生徒が入学してきたとき、何故か男子の先輩と一緒に喜んでた。

応援歌練習のときはヤジを飛ばした。勉強した。がむしゃらだった。男も女もなかった。そういう高校時代だった。私はあのとき、間違いなく、安高生だった。

だから「自分は共学化には反対だった」と言われると、「私も反対だった」と言いたくなる。何故なら、私はまぎれもなく、安高生で、あの質実剛健の気風を満喫すると同時に、後輩の女子生徒が増えていくたびに、その気風がじわじわと失われていくことを目の前で感じていたからだ。

安積高校が好きだった。だから入学したかった。しかし、私たちが入学することによって、私が愛した男子校の気風は失われていく。そうして消えていくものはすべて私たちのせいで、しかしそれは、何より私たちが愛したもののなのだ。

東京桑野会に出席するたびに思う。特に後輩の女性たちを見ると思う。私たち女子一期生は、このジレンマをこれからも生涯抱いていくのだろう。そのうち、数十年が経って、私たちがお婆さんになって、後輩たちが誰も男子校時代を知らなくなったときに初めて、解放されるのかもしれない。

「男子校時代のほうがよかった」

年寄りの思い出の中に生きていくことくらい許されるだろう。もう、「あの頃」はどこにもない。

(慶応義塾大学大学院)

安積での3年間

橋本琢朗 (121期)

この春、無事に大学を卒業することができた。高校を卒業し、東京という福島とは建物の高さも、人の歩くスピードも、スターバックスコーヒーの数も(ちなみに、3月の時点で、福島



画：佐藤昭一 (56期)

県は4店舗しかないのに対して東京は258店舗もある)全く異なる土地に来たのも、もう4年も前のことである。時の流れの早さに、ただただ驚いている。私にとっての大学生活の4年間は、司法試験合格という目標のために、とても日本語とは思えないような堅苦しい法律用語と対峙する毎日であった。日夜勉強に明け暮れた4年間であったが、とても充実していたと思う。

しかし、私にとって安積で過ごした3年間はそれ以上に充実したものであった。ある日、大学の友人から、私がよく口ずさむ「チャカホイ、チャカホイ♪」とは何かと尋ねられたことがあった。私が友人に、チャカホイ節という安積の応援歌の1つであること、応援歌は10曲近くあること、応援歌練習が入学してすぐに行われ応援歌練習を終えなければ真の安高生として認められないこと等を話すと友人は大変驚いていた。安積のように厳格な応援歌練習を行っている高校

は全国的に見ても珍しいらしい。応援歌をなかなか覚えられず、毎日のように応援団の先輩に怒鳴られ、腕立伏せを命じられていた(男子校時代に比べれば、まだまだ甘い!とのことである)ことを思い出し、懐かしさで笑みを浮かべてしまった。20歳を過ぎたばかりの若僧が昔を懐かしむなど、桑野会の偉大な先輩方に笑われてしまうかもしれないが、それでも懐かしいものである。

また、私は安積では野球部に所属し、仲間と共に甲子園を目指した。入部した当初は打球を飛ばす力もなく、無礼の極みであるが、グラウンドの朝河桜を目標に打撃練習を行ったものである。文武両道を掲げる安積で野球と学問の両立をすることは容易なものではなかった。授業の予習をするだけで精一杯で復習にかけられる時間はなく、さらに授業中には幾度となく猛烈な睡魔に襲われた。野球部を辞めようかとも考えたこともあった。だ

が、今となっては野球部を辞めなくて良かったと心から思う。甲子園を目指し、様々な苦楽を共にした仲間は私の人生の財産である。今でも上京した仲間と高校時代の野球の話や酒の肴に飲むことが多い(現にこの原稿を書いている横で同期の深谷立樹がお酒を飲んでいる(笑))。また、法律の勉強で疲れた時も、高校時代を思い出せば「まだまだやれる!」と思える。これらは全て安積での3年間の経験によるものであると思う。安積での3年間の経験が、今の私の人格を形成する一つの要素となっているといっても過言ではないかもしれない。

現在、私は中央大学の法科大学院で2年後の司法試験の合格を目指して日々学問に勤しんでいる。将来は検察官になり、不正を許さない素朴な正義感を持って、正直者が馬鹿を見ない社会を実現するために尽力したいと考えている。

(中央大学法科大学院)

不法電波は
やめましょう!

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう!

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

株式会社 山口電機

www.yamaguhi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

大内先輩からのご命令 —海洋会館の歴史的価値について—

櫻井 淳 (78期)
+ 大内博文 (71期)

1. 大内先輩からのご命令

大内先輩は日本郵船 (NYK) の機関長で世界を股に掛けた楽しい人です。横浜で用事があると、私の事務所によくフラット立ち寄る。ある時「海洋会館」を、知っているかと聞かれ、それは横浜にとって大変重要な建物ですよ。その後横浜市の都市デザイン室から保存の話が来ていることなど、度々相談された。ある時この建物について講演をしなさい、ついでに、「海洋」と言う雑誌に原稿を書きなさい、と言うご命令でした。原稿料は無いものと思えと。講演会の日はまさに昨年の3.11、震災の3日前でした。後で原稿を書きながら不思議な感じがしました。海洋会館と関東大震災は大きな関係があるからです。以下原稿を要約して転載します。

2. 横浜開港と海洋会館の立地

3年前横浜は開港150年で、海洋会館周辺の象の鼻地区を中心に整備し、日本大通りから、海への視線が通った。150年前のペリーの上陸地点で、日米和親条約の地がクローズアップされた。まさに開港以来のシンボル地区として注目された。

当時、ペリーは江戸、せめて神奈川の開港を要求するが、幕府は東海道の要衝である神奈川をきらい、横に長い浜、横浜村を代替として開港、外国人の囲い込み施策をとった。当時横浜の村人を強制的に現在の元町に移住させ、中村川を延長し堀川を開削して出島を作り、関内に関所を設けた。その出島の中心が「象の鼻地区」である。開港後この地区は外国人居留地と日本人居住地の境にあり、2代目の税関(貿易の拠点)が立地し、港湾機能の

中心を担った。

3. 震災後の日本大通り都市景観づくりの先駆的建物

1923年(大正12年)、未曾有の関東大震災で、開港50周年を記念して建てられた開港記念館や三井物産ビルを除いて、この地区は壊滅的打撃を受けた。地区周辺の建物のほとんどが崩れ去った。この後、震災の瓦礫で山下公園(1935)が造成される。

この地区周辺の建物の建築年を調べると1928年(昭和3年)～1932年(昭和7年)建てられたものが多く、建築ラッシュとなる。横浜国大の吉田綱市教授によれば、海洋会館を含めた周辺の5つのビルは(現在4つのみ現存)、川崎鉄三によって設計・監修されたと検証している。昭和ビル、横浜貿易協会ビル、ジャパンエクスプレスビル、(現存しないキックマンビル)と海洋会館である。その景観は、概ね建物高さ12m、左右対称のシンメトリー、額縁的擬石の枠組みとタイル(特異スクラッチタイル)が特徴的であり、昭和初期の横浜の都市景観一県庁舎等と日本大通りの景観を形成した。

今回の東日本大震災でも、この時期

にできた建物は揺れも少なく、被害も少なかった。建築の耐震性は、地盤と建物のバランス、そして施工の精度等が重要で、関東大震災の直後の施工会社・設計者・職人、施主に至るまで建築に対する安全性の意識が、高かった。

この地区には、海洋会館周辺4つの建物に限らず、歴史的建築物が多く分布している。横浜は日本の他の都市に比べ、歴史の浅い都市であるが、歴史的資産を大事にし、都市デザイン室が早くから関内地区の建物の保存に積極的であった。その結果、現在この歴史的地区は、旧第一銀行、NYK倉庫、旧富士銀行(芸大)などを活用して、クリエティブシティ(創造都市)の界限として位置づけられ、私もこの事業に関わっているが、芸術文化のコアとして、活きた都市空間として様々な実験事業を行っている。

4. 海洋会館の建築史的意義—スクラッチタイル

フランク・ロイド・ライト設計の東京の帝国ホテルが1923年(大正12年)に竣工する、竣工の日が関東大震災であった。震災で、レンガ造の多くの建物が崩壊する中で。帝国ホテルはほと



☆印が海洋会館
番号は竣工年19〇〇年

んど損傷なく耐えた。

震災後、日本の建物の構造は、レンガ造からコンクリート造に変わった。この時帝国ホテルがスクラッチレンガで覆われていたため、コンクリート造にスクラッチタイルを貼るスタイルが流行した。この海洋会館も日本モダニズム建築の先駆者・川崎鉄三によって設計もしくは関与されており、帝国ホテル竣工から6年後に竣工するこの建物はスクラッチタイルが採用された。神奈川県庁も含めて、昭和初期の横浜関内地区の景観はスクラッチタイルで統一され、材料の風合いや時代を象徴する香りが漂う。

(78期 櫻井淳計画工房代表)



海洋会館

—命令者のあとがき—

「海洋会館」は昭和4年(1929年)、関東大震災後の復旧工事の一環として建造されたことは、専門家、櫻井さんが記された通りで、平成21年横浜市の歴史的建造物として登録されました。条件の中で「現役で使用されていること、耐震強度があること、並びに建造当時の外観を保存維持すること」が要求された。都市デザインの専門家である櫻井さんが横浜で活躍していることから、同窓のよしみで何かと相談ののっていた。

桑野会とほぼ同じ規模の(社)海洋会(会員12,000名強、横浜支部3,000名強)にとって、横浜市よりの工事助成はあるとはいえ、財政的にはかなり困難な事業であった。平成22~23年、

2年間かけて、耐震診断、補強、外観保全工事に入った。前記櫻井さんに海洋会館の歴史的価値について講演をお願いしたのは3月8日、補強工事が完了したのは10日、11日は14:30より横浜市港湾局(貿易センタービル6階)で会議が始まった直後、東日本大震災が発生した。貿易センタービルは関東大震災の瓦礫を埋め立てた山下公園の前、会議は中断、階段を駆け下りて海洋会館の無事を確認した。

海洋会館は関東大震災後の復興事業として誕生、今回の東日本大震災直前耐震補強工事が完了、平成23年12月末に外観工事も無事完了した。同時に内装も新たに新年を迎えることが出来た。港街・横浜の市民と訪れる多くの人々に横浜の歴史を感じてもらえればと思います。横浜は日々新しく変化・成長しています。休日には家族揃って訪れてください。「帆船日本丸・港博物館」、「赤レンガ倉庫」、「郵船歴史博物館」、「象の鼻パーク」「山下公園」、「中華街」、「客船棧橋の外航クルーザー」、「キング・クイーン・ジャックの三塔」そして小さな「海洋会館」を見て貰えれば幸いです。

(71期 大内博文)

朝河貫一顕彰協会の活動について

矢吹 晋 (70期)

朝河貫一博士顕彰協会は、元来2011年4月9日、安積歴史博物館で理事会を開催し、次いで5月15日に2011年度総会を開催すべく、事務局が鋭意準備を進めていた。ところが、天に不測の風雲あり。周知の通り、3月11日の大地震・大津波を契機とする原発大事故に見舞われ、わが郷里は大混乱に陥った。その後遺症は、未だに癒えないばかりか、拡大しつつある局面も見られる。たとえば懸命の除染活動によって、ようやく放射能を局部的に減らすことに成功したと安堵した途端に、今度はその除染に用いた水が海にホットスポットを生み出す。こうして県民は先行きの不透明な放射能禍に悩まされ続けていることは、会員各位のご承知の通りである。

さて、この事態は、わが顕彰協会の活動をも直撃し、活動は一時停止状態に陥り、そのまま年末を迎えた。2012年はぜひとも活動再開にこぎつけたいと念じている。まず何よりも安歴博は、骨組みこそ無傷だったものの、地



朝河桜の看板

震によってかなりの部分の漆喰壁が崩れた。これを如何に修復するか、関係者は頭を悩ましてきた。国の3次補正予算で補助額は決定したものの、予想よりは少なめ、したがって桑野会の寄付集めに対する要請がより強まった、と現地からの報告は伝えている。2012年を「復興元年」とする象徴として、修復へのご協力を仰ぐ次第である。

次に母校安積高校の「朝河桜」説明版の立て替えは4月上旬ようやく完成した(写真参照。写真提供は村田英男氏(75期))。2010年春、立ち枯れの危機を懸念されたが、樹木医の診断の結果、支柱4本で支え、陽射しを遮る

隣の大杉を伐採するなどの措置により、2011年春には見事に再生し、そこにアルミ複合版の案内「朝河桜の由来」を設置した。この企画に際して、65期の柏原秋治水さんから多大のご寄付を頂戴した。詳しくは、『朝河貫一博士顕彰協会会報』(第33号、2011年5月21日付)に寄せられた梅田秀男さん(元安積高校校長)の一文を参照されるようご案内したい。

最後に、訃報だが、顕彰協会は2005年8月と2010年8月と2回「入来の旅」を行い、その度に「入来薪能」を楽しんだ。入来町とは、すなわち朝河貫一のライフワーカーThe

Documents of Irikiが分析した古文書を遺した町だ。その企画のプロモーターを永年務めて来られた入来院貞子さんが脳内出血で逝去した(2011年5月3日)。「入来の語り部」として、大方の期待を集めていたが、「貞子の語る『入来文書』」が絶筆となった。夫君・入来院重朝氏によると、鹿児島の高城書房から一周忌を期して、この絶筆が単行本化される由なので、出版の暁には追ってご紹介したい。

(朝河貫一顕彰会代表理事・横浜市立大学名誉教授)

安積歴史博物館たより

村田英男 (75期)

昨年の東京桑野会会報は4月1日発行でしたので、大震災の被害を報告出来ませんでした。23年8月15日の安積桑野会たよりに書いた震災被害報告と重複しますがご容赦下さい。その後の状況変化に応じ修正加筆致しました。(報告は平成24年1月15日現在)

- 1、大震災における被災状況は
 - a、内部漆喰は殆ど崩落しました。一部剥離していない箇所もありますが修繕には全部剥離させ再度塗り仕上げの必要があります。
 - b、木造建物本体、建具も不都合が無く、損傷も無い。
 - c、外部、石積み土台の上に乗る木造



画：佐藤昭一 (56期)

小濱 精吾 (58期)

古川 清 (63期)

伊藤 巖 (65期)

〒336-0936
さいたま市緑区太田窪3-15-16
Tel.&Fax.048-885-1150

部のずれが生じた。ずれの個所はバルコニーを挟んで西側。東側は石と木造部がアンカーで留めて有るのでずれなかったと推定。

- d、郡山市内家屋の瓦屋根のぐし（頂上尾根部分）が多数崩落しているのに旧本館屋根は殆ど損傷無し。この建物の屋根が無傷である事は建造的価値をさらに高めた（NPO日本民家再生協会 宗像智加枝氏談）
- e、壁を構成する漆喰の剥離崩落が建物の振動吸収、耐震の役割りを果たしたとも考えられます。

2、今後の方針。

すぐ、写真を撮り記録に残しました。残念ながら国指定重要文化財は勝手に片付けすら出来ません。平成23年4月14日の文化庁の現地視察で「被害は深刻だが致命的では無く、復元可能だ」との報告を受け、役員会で再興を議決しました。

3、あと片付け

視察の後にOB有志の協力を得て、展示物、什器備品を移動させつつ片付けました。一回目5月8日36人参加、二回目22日22人参加。剥離した土砂は再利用の予定もあり室内に集積してあります。以降は館長と事務局員が少しずつ整理しています。

今後も展示品の移動など、若手OBの力仕事などで経費を節約する場面も有るかと思しますので、よろしくご協力お願いいたします。

4、震災後復興の資金調達

公益財団法人、文化財建造物保存技術協会より見積額が提示され総予算148,500千円と成り、三次補正予算で文化庁補助金85%、福島県補助金6%郡山市補助金5%が23年12月末日に確定し建物本体での自己資金は残額4%約6,000千円で済む事となりました。

山口勇理事長を委員長に「安積歴史博物館震災復興委員会」を立上げました。A、外壁塗装工事。B、博物館展示物リニューアルがある事から、それら費用を加算して総額30,000千円の募金を募る事にしました。本格募金活動に入った折にはご協力よろしくお願いたします。

5、完全復旧までの工期

a、この会報が皆様に届く頃、建設工事に入るものと思われます。建物の移動を修正する揚屋工事、基礎工事が24年9月頃まで、その後全館の左官工事となります。冬季は養生に入るため、建物本体の完工は平成25年6月頃までになるとと思われます。

b、建物が全部修復された後に博物館展示品の配置などに取り掛かりますので、展示品を含めた博物館全体のグランドオープンが平成26年頃（創立130周年）にずれ込むかもしれません。展示に関するプランは決定を見ておらない為、専門知識（学芸員）をお持ちの

方はぜひ声をあげ、積極アドバース下さい。

現在事務局は下記6人で分担しております。柳沼征壽 70期。国分敏雄 74期。村田英男 75期。深谷昇 76期。阿部紘和 77期。橋本文典 84期。公益法人移行の手続きもしております。新財団は公益性を求められる為、今迄に比べて安積高校OBカラーは薄まる事となります事をご理解下さい。

（編集部注）安積歴史博物館の被害の状況は、村田英男氏のブログに写真が掲載されています。漆喰の壁が落ちてしまいました。無残な姿で、涙が出てきます。

<http://blog.kirakuya.jp/?eid=119077>

ホームページの運用状況報告

—創設9年目の活動とアクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀雅美（86期）

（東京桑野会ホームページ委員長）

「10年ひと昔」と言うが、当会ホームページがグランドオープンしてからこの3月で10年目に突入した。過去何度も繰り返してきたが、情報化技術はこの数年間にも飛躍的に向上・変革し、アラブの春やアルカイダ殲滅もイ

株式会社開成プランニング 代表取締役
(<http://www.kaisei-planning.co.jp>)

和田 正哉（77期）

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2
勤務先電話：03-3230-8001
FAX：03-3230-8550
携帯：090-3236-3883
e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp
携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp
自宅電話: 047-332-2287

株式会社 富士ハイエンジニアーズ
一級建築士事務所

代表取締役 (管理建築士) 遠藤 修（67期）

(一級建築士)
(一級建築施工管理技士)
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015 川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号
☎: 044-988-7387
FAX: 044-988-7547
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

安高は自分の心の拠りどころ

医療法人社団 松弘会 トワーム熊谷
介護老人保健施設

施設長 渡辺 哲弥（70期）

(練馬区東大泉7-14-15)

インターネットの世界なしには実現しなかった。情報統制が著しい中国でさえもネット人口は飛躍的に増加し、中国共産党の地位も今や危うくなっているし、北朝鮮の金正日将軍死去の真相もネットで世界を駆け巡った。昨年311の大震災と津波、追い討ちをかけた原発事故に遭遇したわが故郷福島県の復興を祈りつつ、ネットを紐解くとSNSやメーリングリスト、ツイッター、フェイスブック、スカイプなどおじさんにはちんぷんかんぷんの言葉が幅を利かせている。大人よりも若者や子供たちが得意として使いこなしており、ちょっと「つぶやく」と瞬く間に「リプライ（返信）」が多数書き込まれる。これらのネット情報により、現場の生の情報がいち早く入手できるものの、信用できない憶測や流言飛語も多いので注意が必要である。要は道具の使い方か。

この一年間、特に当会のホームページの掲示板に書き込みが少なくなってきた最大の理由はこのあたりにあるものと思っている。新しい道具は使い易くて返信も楽だし、パソコンではなく携帯端末からも容易に扱える。フルブラウザのごちゃごちゃした画面は見にくく、携帯端末では操作が難しい。当会ホームページの設定は、デスクトップパソコンやA4ノートブックパソコンを主なユーザーとして想定しており、今となっては時代に後れてしまっている。当会ホームページ委員会も若返りを図り、新規技術を習得して



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

これらの欠点を補い応用展開を実行したいと常々考えているが、全く達成できていない。われはと思う会員の自薦を願いたい。

本題の当会ホームページ運営活動であるが、毎年の会報での年間活動報告は、回を重ねて9回目となった。引き続きハード面では大きな障害やトラブルはなく、掲示板のロボットによるスパム投稿も完全にブロックし、平成23年度も平穩無事に運用することができた。ご利用いただいた会員の皆様に、深く感謝を申し上げたい。

この9年目については、追加記事の掲載やイベント紹介頁の作成など殆どなかったに等しい。コンテンツ提供の

貧弱さはひとえに当会ホームページ委員会の非力のせいである。お恥ずかしい活動であり、会員の皆様には平に陳謝したい。少ない改訂・追加コンテンツではあるが記しておく。3年間に亘ってNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」を紹介してきたが、今年の年初に特別紹介頁を閉じた。第1部は平成21年の12月に、第2部は平成22年の12月に放送された。第3部は昨年12月に放送されたが、当会ホームページ閲覧での過去の勢いはなく、紹介頁の内容を回ごとに加筆修正してきたにもかかわらず、アクセス数は大幅に低下した。また会員ブログを2件追加した。「東京桑野会の会旗」と、「【次代

日本海運は若い皆様を待っています

大内 博文(71期)

(社)海洋会副会長・横浜支部長
〒231-0002 横浜市中区海岸通 1-1
☎045-201-7786

21世紀をリードする 安積 SPIRIT!

浅川 章(76期)

東京桑野会副会長

〒338-0821
さいたま市桜区山久保 2-18-3
電子メール : chobi@hyper.ocn.ne.jp

床と壁と屋根 孝和建商株式会社
千葉市中央区汐見丘町16番12号

取締役総務部長 **小林伸久**(84期)
E-mail:nobuhisakoba@docomo.ne.jp

☆Rie's Gospel Choir & Rummy's Gospel Singers
Gospel Concert Vol.5
H24.10.28(日)15時(予定)
南越谷・サンシティホール

☆中里たかし
パークセッションスクール
ライブ VOL. 5
H24.11月(予定)
江古田・パティ(予定)

への名言】雨ニモマケズ編」である。前者は、会旗製作の思い出を65期の中路信氏により語ってもらった。後者はこれも同氏のまとめにより実現したもので、産経新聞朝刊に朝河貫一博士の名言が連載された記事を紹介したものである。震災後の母校を憂いつつ探し求めたが、連載できるような情報を得ることができず、安積歴史博物館内部の被災状況とボランティアの復興活動について僅かに紹介したのみであった。われながら故郷とのネットワークのなさに気が滅入ってしまう。

さて、ここで当会ホームページへのアクセス状況について報告しておく。この原稿を書いている1月までの経過を過去2年間分のグラフで示しておく(別掲の図を参照：今年1月は見込みの数値)。昨年6月には累積訪問者数が30万人を突破した。おそらく今年の6月には、のべ閲覧頁数150万頁を達成するものと見込まれる。この1年間の平均で、月に訪問者4050人、閲覧頁14750頁で推移しており、訪問者数で前年比5%増、閲覧頁数で前年比9%増であった。一昨年は低調であったが、昨年は311震災後の5ヶ月ほどはアクセスが多かった。何か震災の情報を得ようとした会員の数が多かったものと考えられる。情報を積極的に発信できなかった当会ホームページ委員会の責任を重く感じている。

アクセス数が低調になっており会員の皆様のご協力を賜りたく、切に望ん

でいる。また当会ホームページに掲載するバナー広告のご協力についても、この場を借りてお願いしたい。事務局への連絡、またはホームページの「協賛バナー広告募集頁」をご覧ください。

最後に毎年の決まり文句ではあるが、今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えている。重ねて当委員会への参加または情報提供を広く会員諸兄にお願いしたい。

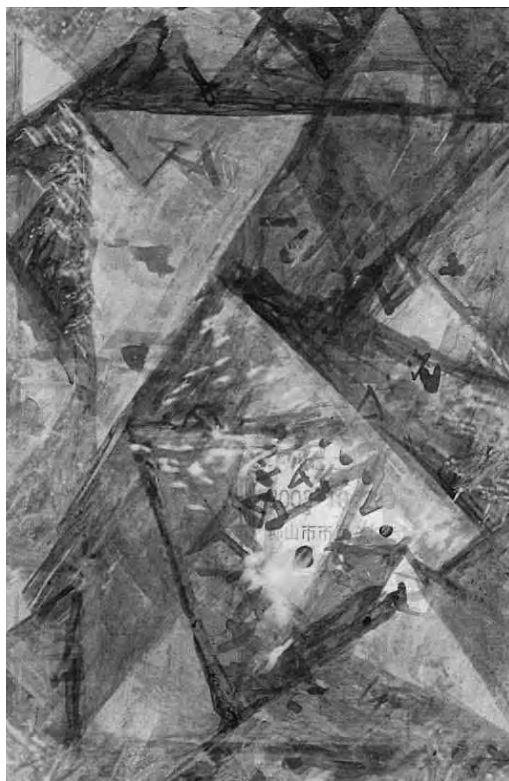
(出光興産(株)電子材料部)

facebook 安積桑野会の オフ会報告

小林伸久 (84期)

先日、facebook*安積桑野会のオフ会を開催致しました。結果につきまして、会報に広報でも報告いたします。(*FaceFacebookは、友達や同僚、同級生、近所の人たちと交流を深めることのできる ソーシャルユーティリティサイトです。)

☆以下は、facebook 安積桑野会を立ち



画：佐藤昭一 (56期)

朝河貫一先輩の警告を現代に伝えよう！

本田 宏(86期)

埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐
NPO法人医療制度研究会 副理事長

- ・誰が日本の医療を殺すのか 医療崩壊の知られざる真実、07年9月7日 発売 洋泉社 本体定価780円
- ・医療崩壊のウソとホント★
09年9月16日発売 PHP研究所 本体価格1200円
- ・日本の論点2012 論点-68 医師不足は本当か
12年1月1日発売 文藝春秋 本体価格2838円

弁護士 **斉藤 英彦**(69期)

〒160-0022

東京都新宿区新宿1丁目3番8号

YKB 新宿御苑 804号室

電話 (03)3356-6677 番

FAX (03)3356-6678 番

ごうや

山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 **鈴木 修一**(89期)

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館1階115号室

TEL 03-3501-0451

FAX 03-3501-0452

上げた、村田英男先輩の文章です。
「今回安積桑野会facebook network を立ち上げました。総裁は 矢吹晋=70期です。(2011年9月現在108名)(10月現在170名)(11月1日現在221名)(2月2日現在275名)概ね、上は70代から孫の様な下は10代までよろしくお願ひ致します。知りあいの一方通行で通じあえないより、安積高の卒業生をどんどんまずはグループ登録する。そしてこの「安積桑野会facebook Network」を通して若者の「安積桑野会」を作りましょう。そしてお互いに「友達ポチッ」よろしくお願ひいたします」
☆以下が小林がオフ会開催について作成した文章です。

「安積桑野会facebook Network オフ会のお知らせ

日時：2012年1月29日17:30～19:30

場所：銀座（…以下、省略）

本会も、255名となりました。こころで一度オフ会をとという声もあり、84期小林伸久が企画いたしましたので、ご案内申し上げます。

料金：3,600円（オーダーバイキング15品・食べ放題・飲み放題）

申し込み：小林伸久（メールアドレス省略）

締め切り：会場の都合もありますので、早めの申し込みをお願ひ致します。それと参加される方は、緊急連絡用に必ず私に携帯電話の番号をお知らせください。最終キャンセルは1月26日(木)

までにお願ひ致します。なるべく多くの方々に参加して頂けるよう、ある程度のレベルで格安の場所を探しました。当初はお茶の水近辺を捜しましたが、私が昔、学生時代に住んでいたところの近くとなりました。facebookで知り合った安積の仲間と、共に語り、共に飲んで友好を深めたいと思いますので、万障繰り合わせの上、多くの方々の参加をお願ひ致します。幹事役 安積高校84期卒 小林伸久（喜久田中出身）
☆その結果です。

寒風吹きすさぶあいにくの天候となり、参加人員も5名と多くは無かったです。安積を福島の将来を思い、熱

い思いをぶつけあい、厳しい意見の中にも、暖かい雰囲気もあり、話すほどに、飲むほどに、酔うほどに、楽しい会となりました。安積歴史博物館の再興の問題も今年は、具体的な問題となりますので、村田さんも是非、東京桑野会総会に参加して訴えたいと熱く話しておりました。矢吹先輩の撮影した写真を添付させていただきますので、宜しくお願ひ致します。安積桑野会、東京桑野会をサポートする新たな形のOB会の今後の可能性に期待します。参加者（敬称略）：矢吹 晋（70期）、村田英男（75期）、小林伸久（84期）、阿部力也（94期）、安孫子哲教（115期）の5名でした。



Facebook のオフ会報告

株式会社櫻井淳計画工房

代表取締役 一級建築士

櫻井 淳 (78期)

〒231-0007

横浜市中区弁天通6-85宇徳ビル403

TEL: 045-663-9271

FAX: 045-663-9273

E-mail: spajun@bk.ij4u.or.jp

Web Site: <http://www.j-sakurai.jp/>

協賛広告のお願い

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。

お問い合わせは事務局まで。

平成 22 年度決算報告書

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

	決 算 額	予 算 額
1 収入の部		
(1) 前年度繰越金	333,180	333,180
(2) 年会費収入	1,058,000	1,300,000
(3) 総会費収入	926,000	1,100,000
(4) 協賛広告料	335,000	335,000
(5) 受取利息	16	400
(6) 雑 収 入	90,350	50,000
収入合計	2,742,546	3,118,580
2 支出の部		
(1) 総会懇親会費	1,068,150	1,150,000
(2) 通 信 費	37,810	80,000
(3) 会 議 費	4,080	50,000
(4) 会報作成費	374,220	374,220
(5) 会報発送費	344,956	344,956
(6) 事務消耗品費	153,533	150,000
(7) 母校後援費	0	100,000
(8) 冠婚葬祭費	0	70,000
(9) 支払手数料	46,495	50,000
(10) 人 件 費	400,000	400,000
(11) 交 通 費	1,300	100,000
(12) 名簿編集費	30,000	30,000
(13) ホームページ・広報部会運営費	24,360	100,000
(14) 雑 費	0	100,000
(15) 予 備 費	0	19,404
支出合計	2,484,904	3,118,580
次期繰越金	257,642	0
3 特別会計		
事業準備積立金	1,366,210	
4 財産目録		
(1) 普通預金（三井住友銀行）		10,740
(2) 定期預金（三井住友銀行）		1,366,210
(3) 郵便振替貯金		230,302
(4) 現 金		16,600

平成 23 年度予算案

(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

1 収入の部		
(1) 前年度繰越金		257,642
(2) 年会費収入		1,300,000
(3) 総会費収入		1,100,000
(4) 協賛広告料		300,000
(5) 受取利息		400
(6) 雑 収 入		50,000
収入合計		3,008,042
2 支出の部		
(1) 総会懇親会費		1,150,000
(2) 通 信 費		50,000
(3) 会 議 費		20,000
(4) 会報作成費		367,290
(5) 会報発送費		335,689
(6) 事務消耗品費		150,000
(7) 母校後援費		100,000
(8) 冠婚葬祭費		50,000
(9) 支払手数料		50,000
(10) 人 件 費		400,000
(11) 交 通 費		50,000
(12) 名簿編集費		20,000
(13) ホームページ・広報部会運営費		50,000
(14) 雑 費		100,000
(15) 予 備 費		115,063
支出合計		3,008,042
次期繰越金		0

平成 22 年度決算および平成 23 年度予算案は平成 23 年度総会において承認されております。

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成 23 年 5 月 16 日

会計監査 大 内 博 文
 会計監査 関 根 健 治

会費納入のお願い

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。（東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください）

東京桑野会役員名簿 平成 24 年 4 月 1 日現在

□役員

役 職	氏 名	期	勤務先・自宅住所	電 話
会 長	古川 清	63		
副会長	大津 隆	63		
副会長兼 幹事長	斉藤 英彦	69		
副会長	増子 邦雄	71		
副会長	高松 豊	74		
副会長	浅川 章	76		
副会長	和田 正哉	77		
副会長	櫻井 淳	78		
副会長	上石 利男	80		
副会長	渡邊龍一郎	81		
副幹事長	椎野 靖啓	78		
副幹事長	宗像 良保	78		
副幹事長	丹治 則男	81		
副幹事長	小林 伸久	84		
副幹事長	村上 昌弘	85		
副幹事長	坂本 浩一	86		
副幹事長	芳賀 雅美	86		
副幹事長	渡辺 政信	88		
副幹事長	大矢 真弘	88		
副幹事長	鈴木 修一	89		
副幹事長	渡部 良朋	91		
会計監査	大内 博文	71		

役 職	氏 名	期	勤務先・自宅住所	電 話
会計監査	関根 健治	73		
顧 問	竹花 則栄	55		
顧 問	小浜 精吾	58		

□幹事

役 職	氏 名	期	勤務先・自宅住所	電 話
幹 事	石川 衛三	57		
幹 事	池田 和男	58		
幹 事	佐藤 啓	61/ 62		
幹 事	村山 俊司	61/ 62		
幹 事	鶴沼 直雄	63		
幹 事	谷本 滋朗	63		
幹 事	渡部 喬一	64		
幹 事	本田 保夫	64		
幹 事	佐藤 司	64		
幹 事	伊藤 巖	65		
幹 事	堀江 敏夫	65		
幹 事	清治 和昭	66		
幹 事	橋本大三郎	66		
幹 事	横尾 稔	66		
幹 事	遠藤 修	67		
幹 事	青山 掌三	68		
幹 事	有我 政彦	68		
幹 事	清治 武光	68		
幹 事	佐藤 廣	69		
幹 事	石井 敬治	70		

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	矢吹 晋	70		
幹事	渡辺 哲弥	70		
幹事	武藤 勇司	71		
幹事	大和田允彦	71		
幹事	遠藤 宏司	72		
幹事	武藤 一駿	74		
幹事	伊豆 秀雄	74		
幹事	今川 直人	75		
幹事	柳田 力	75		
幹事	満井 和正	76		
幹事	草野 幸次	77		
幹事	大竹 英雄	79		
幹事	山元 紀美	79		
幹事	安部 直文	80		
幹事	斎藤 誠	81		
幹事	石井 俊一	82		
幹事	永山 幸男	82		
幹事	渡辺真佐夫	84		
幹事	境 君夫	85		
幹事	本田 宏	86		
幹事	坂路 誠	87		
幹事	富塚 弘之	87		
幹事	有我 明則	90		

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	秋山 茂雄	91		
幹事	田原 美郷	91		
幹事	増子 浩重	92		
幹事	斎藤 宏海	93		
幹事	鎌田 光明	94		
幹事	藤田 健彦	96		
幹事	佐藤 厚	97		
幹事	小野崎 敦	97		
幹事	宗像 孝	98		
幹事	御代田邦英	100		
幹事	葛西 正輝	102		
幹事	小林 弘典	103		
幹事	佐藤 正典	103		
幹事	土田 隆弘	105		
幹事	加藤 祐一	105		
幹事	柳田 良幸	106		
幹事	後藤 大	107		
幹事	宗像 淳	107		
幹事	藤原 伸浩	111		
幹事	中館 透	113		
幹事	安孫子哲教	115		
幹事	星 瑞穂	117		
幹事	橋本 琢朗	121		

編集後記

○【挿絵のこと】今号の挿絵は、第56期昭和19年卒の佐藤昭一先生にお願いしました。昭一先生に宛てた私からのお願いの手紙を一部転載します。『佐藤昭一先生 早くも年末になりました。急行列車のような早さの一年でした。そして今年はいつになくトラブルの多い一年でもありました。そんなさ中に、昭一先生の「福島県文化功労賞」の受賞の朗報がありました。お陰様で、清々しい思いで年を越すことができました。心よりお祝い申し上げます。さて、御受賞を記念して、前にもお頼みしたことのある「東京桑野会」の「会報」の「挿絵」を再度お願いしたいと思います。作品は来春1月19日（木）の開南幼稚園の授業の後、先生をお訪ねして、お預かりさせてください（略）草々』

当日、予定通りにお訪ねしました。先生はアトリエでした。奥様が取り次いでくれると、「アトリエに来て選んでいけ」とのこと。私は同行の嶋影（トックリの御長男）とおじゃまをして、作品を7点、お借りしました。先生の制作意欲は熱いままに生き生きとキャンパスに向かっていました。「ゆたかクン、自分の絵のウラには、なにがあんのが、ちゃんとしておがせよ」「いやいや、この斜めの線一本描くの半日かかってんだ・・・」「まだごせ」「はい、またおじゃまいたします」（高松ゆたか）

○先週も今週もフクシマでした。先週は学生時代の仲間を引率して、福島市、飯館村、相馬市・松川浦などを巡り、津波による惨状と原発事故で避難生活を余儀なくされている人々の話を聞いて歩きました。「悔しいです。東電、恨んでいます」の声がいまだに耳に残ります。昨日は郡山市開成山球場で開かれた「原発いらない！ 3.11福島県民大集会」に参加。郡山市始まって以来という1万6000人がデモ行進し、「原発全廃止！」を叫びました。今年も震災と原発事故を忘れず、寄り添うためにもフクシマ通いを続けます。

（宗像良保）

○3.11で全てが一変した。昨年の4月初めに、ガソリンが福島でも手に入ると知り、心配で、須賀川へ車を運転して帰った。自分の設計した建物は全て無事（特に幼稚園）。津波ニュースの影で、須賀川や鏡石の破壊された建物の凄さに愕然。特に歴史的景観を持った建物が傷んだ。須賀川の友はとにかくひたすら飲んで語りたがった、郡山まで行けず須賀川に逗留。原発の影響が明確に見えない時期だった。現在の状況はもっと大変だ。福島県の人口は将来、半減するだろうと言われている。こんな中での会報編集、「福島県を安積県」に変えるとパロディのような原稿、そして、「女子一期生のジレンマ」も楽しかった。「女だ！スカートはいてるぞ！」は、言っている男子生徒の心情がかわいい。（櫻井淳）

○この4月の人事異動で東京本社に転勤となった。思い起こせば6年間、携帯電話の電波も届かない山の中の生活で、四季を感じ自然を相手に鳥や獣、草花に囲まれ日々楽しんできた。久々の東京勤務であり、満員電車の通勤も再び始まりしばらくは慣れない環境と人間関係に悩みつつも、会社員としての宮仕えもラストスパートとなった。隠居後もボケないように、これから一生楽しめるような趣味を探し、あるいは短時間でも働けるようなところを見つけたいと思っている。（がっちゃん）

○今号の特集では、東日本大震災からの復興を祈って、また、安積へエールを送るため、ご寄稿をお願いしました。悔しさに心を支配された一年でしたが、3.11より一年が過ぎて、今No.34を読み、勇気づけられています。（GF91）

事務局便り

【矢吹晋先生の講演会のご案内】

安積OB・当会会員である矢吹晋先生の講演会が下記の通り企画されています。テーマは「朝河貫一に学ぶもの」です。奮ってご参加ください（東京桑野会HPにも案内があります）

1.期日 平成24年4月19日（木）

13:00～14:30

2.場所 如水会館（地下鉄竹橋駅、神保町駅、徒歩5分）

3.演題 『憂国の歴史学者、朝河貫一に学ぶもの』

4.講師 矢吹 晋先生 21世紀中国総研ディレクター、朝河貫一顕彰協会代表理事

5.概要 日露戦争時、米国で日本の立場を弁明したイエール大学の朝河貫一（後に教授）は、戦勝後の日本の外交姿勢に「日本の禍機」を憂い（明治42年）、将来米国との衝突を免れぬと警鐘を鳴らす。彼の憂国の情は太平洋戦争まで続くが1948（昭和23）年、米国で日本の再興を予言しつつ75歳で昇天。この偉人を輩出した安積高校の後輩に当たる講師は畏敬と愛惜の念をもって、先哲の生涯を語る。

6.申込 参加費2,000円、女性1,000円、学生無料（当日受付で）

申込先 新三木会幹事・則松久夫まで、下記メールか

電話でお申込み下さい。

新三木会幹事：則松 久夫
電話 047-464-4063

携帯 090-3813-0137

e-mail norim@jt7.so-net.ne.jp

【事務局からのお願い】会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきてしまいますので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいますようお願い申し上げます（東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております）。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

『東京桑野会会報』No.34

2012年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

斉藤法律事務所気付

Tel03-3356-6677 Fax03-3356-6678

E-mail info@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel03-3635-4510 Fax03-3635-4515